

## 護床工における木製フトン籠の使用について

### 事例の概要

帯工下流部の河床洗掘が激しかったため、護床工として木製フトン籠を使用しました。6月末の局地的豪雨の際に、中詰石が流出し、木製フトン籠も少し移動してしまいました。

### 原因

当該製品は、間伐材を使用した枠内に玉石を詰めるもので、大型フトン籠に比べ安価であり、間伐材利用促進になると思います。試しに使ってみました。通常のフトン籠のような上蓋がなく、上はオープンなため、詰石が流出しやすいという欠点がありました。豪雨出水

時に、中詰石が流出し軽くなったため、木製枠のフトン籠も移動してしまいました。

### 対応策と教訓

- ①中詰石を出して、木製枠を元の位置に戻し、枠内を袋詰玉石により充填し、速やかに復旧しました。
- ②木製フトン籠を護床工として利用するには、中詰に袋詰玉石を使用するなど、詰石の流出防止策を講じる必要があります。それぞれの河川の特性或施工箇所等に応じた工法を選定しましょう。

### 解説図



移動した木製フトン籠



袋詰玉石

### 参考 「帯工」とは

河床の洗掘を防いで河川の勾配（上流から下流に向かっての川底の勾配）を安定させるために、河川を横断して設けられる施設。床固めということもありますが、機能は同じです。床止めに落差がある場合、「落差工」と呼び、落差がないかあるいは極めて小さい場合、「帯工」と呼びます。